

事業者排出量削減報告書

(あて先) 京都府知事	
住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地） 京都市南区上鳥羽塔の森東向日町66	氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名、記名押印又は署名） 株式会社 アース カーゴ 代表取締役 西畑 義昭 電話 075 - 661

京都府地球温暖化対策条例第19条の規定により提出します。

特定事業者の主たる業種	運輸業					
該当する事業者要件	<input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上）） <input checked="" type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第2号又は第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上））					
計画期間	平成 18年 4月 ~ 平成 20年 3月					
基本方針	環境マネジメントシステムの推進により、燃料効率（対純売上比）の7%向上を目指す。					
推進体制	環境マネジメントシステムの推進体制に順ずる。					
年度ごとの具体的な取組及び措置	年度	措置内容				
	18	トラック	新省エネ運転手講習の遵守を徹底指導及び、省エネ運転実車体験講習会等も含め啓蒙活動に徹し、社員の意識向上を目指す。			
	19	トラック	又、配車段階で積載効率を考慮し、積み合せや分離配送などを駆使して効率的な運行を行う。			
温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度（実績） （16）年度 （二酸化炭素換算（t））	目標年度（計画） （19）年度 （二酸化炭素換算（t））	削減率 （計画） （%）	報告年度（実績） （19）年度 （二酸化炭素換算（t））	削減率 （実績） （%）
	A 事業所等排出区分	20 t	20 t	0.0 %	20.5 t	2.5 %
	B 輸送車両排出区分	3186 t	3186 t	0.0 %	3353.8 t	5.9 %
	C その他排出区分	t	t	%	t	%
	排出合計	3206 t	3,206 t	0 %	3374.3 t	5.2 %
その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等	対策等の区分	目標年度（計画）		報告年度（実績）		
		取組量等		取組量等		
	森林の保全及び整備	（整備面積）	ha	（吸収量）	t	
	府内産の木材の利用	（利用量）	m ³	（削減量）	t	
	自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	（発電量）	kwh	（削減量）	t	
		（熱供給量）	GJ	（削減量）	t	
	グリーン電力の購入	（購入量）	kwh	（削減量）	t	
	削減量等合計	t		t		
差引排出量 （排出合計-削減等合計）	基準年度（実績）	目標年度（計画）	削減率（計画）	報告年度（実績）	削減率（実績）	
	3206 t	3206.0 t	0.0 %	3374.3 t	5.2 %	
特記事項	(2000年比) ISO14001に取組み、2004年時点で既に7%のCO2削減を達成しており、現在では目標を対走行距離（CO2排出量）から純売上比に変更しており、CO2排出量は増加させない事を目標としていましたが、売上向上に伴い燃料使用量が増え実質CO2排出量が増加してしまいました。					
	連絡先	担当部署				
		担当者氏名				
		住所				
		電話番号				
	ファクシミリ番号					

注 1 該当する場合は、レ印を記入してください。特定事業者以外の事業者の方はレ印の記入は不要です
 2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度を、「報告年度」とは計画期間のうち、今回報告の対象となる年度をいいます
 3 「事業所等排出区分」とは京都府内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を京都府内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の京都府内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます
 4 「その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等」の実績については、計画期間中の実績を累計して記入してください
 （例）グリーン電力の購入による温室効果ガスの削減実績が18年度5トンで19年度10トンの場合、19年度の報告書の実績については18年度と19年度の実績を累計し15トンと記入
 5 特記事項には、平成2年度（1990年度）を基準とした排出量の対比やエネルギー原単位CO₂排出量、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達の実績、特定フロンなどの条例指定外の温室効果ガスの削減などを記入してください